

米 国



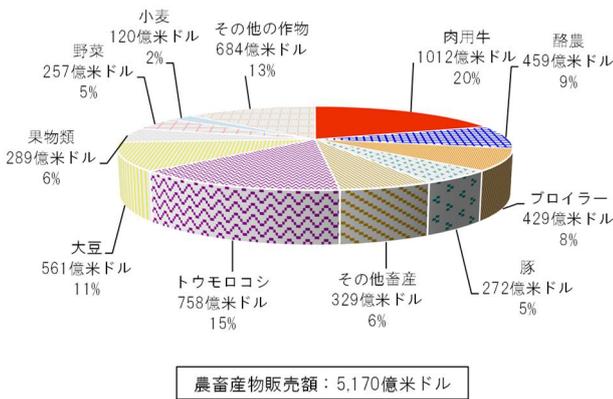
1 農・畜産業の概況

米国経済における農業の位置付けは、他産業の発展に伴い低下傾向にあり、2023年の国内総生産(GDP)に占める農業生産の割合は4.7%となった。

23年の農業経営体数(農畜産物の年間販売額1000米ドル以上)は、前年比0.3%減の189万4450戸、農用地面積は同0.1%減の8億7856万エーカー(3億5554万ヘクタール)となった。1経営体当たりの農用地面積は、同0.2%増の464エーカー(188ヘクタール)であった。また、年間10万米ドル以上の農畜産物販売実績のある経営体は全体の21.0%(同1.0%増)となり、全農用地面積の73.8%(同0.9%増)を占めるなど大規模化が進んでいる。

23年の農畜産物販売額(現金収入。自家消費分を除く)は、5170億米ドルと前年を4.7%下回った(図1)。

図1 農畜産物販売額(2023年)



2 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

米国は、年間1億トン近くの生乳を生産する世界最大級の酪農国である。国内に巨大な消費市場を抱えていることなどから、仕向け先の多くは国内向けである。ただし、近年は世界的な乳製品需要の高まりなどから、米国の乳製品輸出は増加傾向にある。

ア 主要な政策

2018年農業法下での酪農の主な制度には、連邦生乳マーケティング・オーダー制度（FMMO）、酪農マージン保証プログラム（DMC）、牛乳寄贈プログラム（MDP）がある。

FMMOは、オーダー（生乳取引地域）内で取引される生乳については、飲用向け1分類と加工向け3分類の計4分類の用途に分け、それぞれの最低取引価格が設定されている。また、生乳取扱業者に対し、生産者へのプール乳価（用途別乳価を加重平均した乳価）支払いも義務付けている。これにより、生産者に対して安定的な収入の確保を可能にするとともに、消費者に対して合理的な価格で牛乳・乳製品を供給することを目的としている。2000年1月からは、1）オーダー数の再編統合（当初の31地域が段階的に統合され、04年4月から10地域に）、2）生乳の用途区分の再分類（3区分から4区分に）、3）最低取引価格の設定に当たり、従来の基礎公式価格（BFP）に代えて、多成分価格形成システムに基づく新基礎価格の導入—などの変更が加えられた。

DMCは、2018年農業法で、酪農マージン保護プログラム（MPP）に代わる生産者のセーフティネットとして創設された制度である。DMCはMPPと同様、補填の指標に飼料費を加味し、乳価と飼料費の差を生産者の収益（マージン）とし、掛け率に応じて補償することにより、再生産を確保することを目的としている。DMCでは、補填の発動条件の緩和などセーフティネットとしての機能が改善されている。

またMDPは、2018年農業法で従前の乳製品寄贈

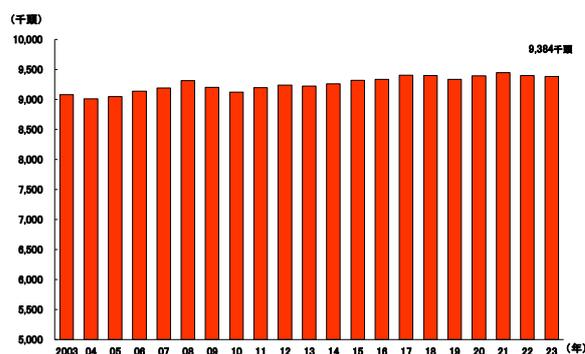
プログラム（DPDP）の代わりとして創設された制度である。これは、生産者や加工業者などが低所得者層への食料支援として牛乳を公共団体などに寄贈するものであり、発生した費用は政府から払い戻しを受けるという、DPDPをより簡易化した制度となっている。

イ 生乳の生産動向

(ア) 飼養頭数

搾乳牛飼養頭数は、1980年代中ごろから一貫して減少傾向で推移してきたが、99年に下げ止まった後は、小幅な増減を繰り返している。2023年の搾乳牛飼養頭数は、前年比0.2%減の938万4000頭となった（図4）。

図4 乳用経産牛飼養頭数の推移



資料：USDA「Milk Production, Disposition, and Income」

(イ) 生産量

2023年の生乳生産量は、搾乳牛頭数が前年比0.2%減となったものの、1頭当たり乳量の増加により、1億265万3000トン（前年比0.0%減）と前年並みとなった（表1）。

表1 生乳・乳製品の生産量の推移

(単位：千トン)

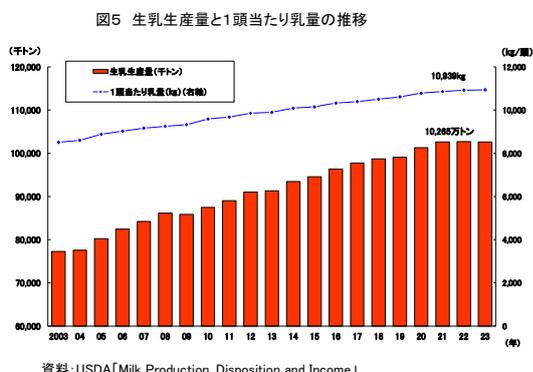
区分/年	2019	20	21	22	23
生乳	99,083	101,291	102,645	102,701	102,653
バター	905	973	936	934	958
脱脂粉乳	840	892	918	887	847
チーズ	5,959	6,005	6,242	6,389	6,421

資料：USDA「Milk Production」、「Dairy Products」

注：チーズはカッテージチーズを除く。

(ウ) 搾乳牛1頭当たり乳量

搾乳牛1頭当たり乳量は、遺伝的改良などにより増加傾向で推移しており、2023年は、1万939キログラム(前年比0.1%増)と前年並みとなった(図5)。



(エ) 地域別生産動向

生乳生産量の5割強は上位5州(カリフォルニア、ウィスコンシン、アイダホ、テキサス、ニューヨーク)で占められており、上位10州(上位5州にミシガン、ミネソタ、ペンシルバニア、ニューメキシコ、ワシントンを加える)で見ると、全体の約7割を占めている。

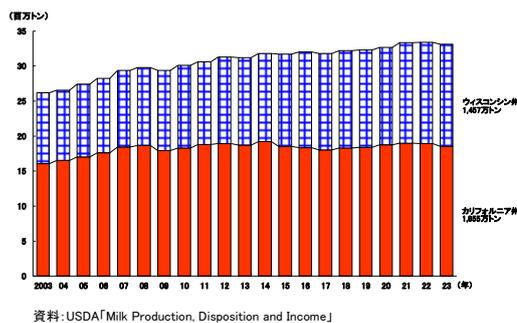
一部の州では、移民を主体とした安価な労働力を活用した大規模化が進んでいる。その代表であるカリフォルニア州は、1993年にウィスコンシン州を抜いて国内最大の生乳生産州となり、以降も増加基調で推移してきた。

しかし、2009年には、前年終盤の輸出価格の暴落を受けて同州の生産量は1792万トン(前年比4.1%減)に減少した(図6)。その後は増減を繰り返しながらも1800万~1900万トン程度で推移しており、23年は1855万2000トン(同2.2%減)となった。一方、生乳生産量第2位のウィスコンシン州は、23年に1457万1000トン(同0.8%増)とわずかに増加した。



写真1 酪農家での乳牛飼養の様子(ニューヨーク州)

図6 カリフォルニア州およびウィスコンシン州の生乳生産量の推移

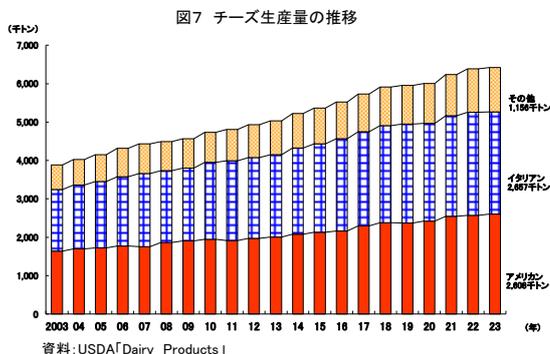


ウ 牛乳・乳製品の需給動向

(ア) 生産動向

2023年のチーズの生産量(カッテージチーズを除く)は、前年比0.5%増の642万1000トンとなった(図7)。堅調な需要により、生産量は過去20年以上にわたって増加基調で推移している。このうち、23年のチェダーチーズを中心とするアメリカンタイプ^(注1)の生産量は、260万8000トン(同1.4%増)、モッツァレラチーズなどイタリアンタイプ^(注2)は、265万7000トン(同0.8%減)となった。

同年のチーズ生産量に占める種類別の割合は、アメリ



カンタイプが40.6%(同0.3ポイント増)、イタリアンタイプが41.4%(同0.5ポイント減)となった。

また、バターの生産量は95万8000トン(同2.6%増)となった一方、脱脂粉乳の生産量は84万7000トン(同4.4%減)となった。バターおよび脱脂粉乳ともにカリフォルニア州が最大の生産州であり、バターを全米の約3割、脱脂粉乳を約4割それぞれ生産している。

(注1) アメリカンタイプには、チェダー、コルビー、モントレージャックなどを含む。

(注2) イタリアンタイプには、モッツァレラ、パルメザン、プロヴォローネ、ロマーリオなどを含む。

(イ) 消費動向

1人当たり飲用乳消費量（製品ベース、以下同じ）は、アーモンドミルクなど植物を原料とした飲料の台頭など多種多様な飲料との競合により近年減少傾向で推移しており、2023年は57.7キログラム（前年比2.3%減）となった。飲用乳については、乳脂肪が必ずしも体に悪影響を及ぼすものではないとの認識が広まっていることなどから、全脂牛乳（いわゆる普通牛乳）の消費が伸びている。

1人当たりチーズ消費量（カッターチーズを除く）は、近年増加傾向で推移しており、23年は前年同の18.1キログラムとなった。一方、1人当たりバター消費量は2.9キログラム（同3.4%増）となった。

エ 生乳・乳製品の価格動向

(ア) 生乳価格

2023年の生乳の生産者販売価格は、国内外における乳製品需要の減少などから、100ポンド当たり20.3米ドル（前年比19.8%安）と大幅に下落した（表2）。

表2 生乳の生産者販売価格の推移

（単位：米ドル/百ポンド）

区分/年	2019	20	21	22	23
生乳平均価格	18.7	18.1	18.5	25.3	20.3

資料：USDA「Agricultural Price」

(イ) 乳製品の卸売価格

2023年の乳製品の卸売価格は、22年の高値から下落し、バターは1ポンド当たり259.4セント（同9.3%安）、脱脂粉乳は世界的な価格下落を背景に同118.1セント（同30.1%安）、チーズは174.0セント（同16.1%安）とそれぞれ大幅に下落した（表3）。

表3 乳製品の卸売価格の推移

（単位：セント/ポンド）

区分/年	2019	20	21	22	23
バター	223.0	157.8	174.5	286.0	259.4
脱脂粉乳	105.6	105.6	130.9	169.0	118.1
チーズ	177.8	199.8	171.4	207.4	174.0

資料：「Dairy Market News」、 「Dairy Monthly Averages」

注1：バターはシカゴ・マーカンタイル取引所の現物価格（グレードAA）。

注2：脱脂粉乳は西部のFOB価格。

注3：チーズは、シカゴ、マーカンタイル取引所（CME）現物価格（40ポンドブロックのチェダーチーズ）。



写真2 小売店でのチーズの陳列風景

(2) 肉牛・牛肉産業

米国は、世界の牛肉生産量の約2割を占める最大の牛肉生産国であると同時に、世界有数の牛肉輸入国でもある。また、農畜産物販売額に占める肉用牛関係の割合は最大となっており、米国農業の中で最も重要な部門の一つと言える。

肉用子牛生産は、家族経営による生産・管理が行われる一方、肉用牛の肥育に関しては、大規模なフィードロットで効率的な穀物肥育が行われている。また、肉牛の処理・流通面では、大手パッカー（食肉処理加工企業）による寡占化が顕著となっている。

ア 肉牛の生産動向

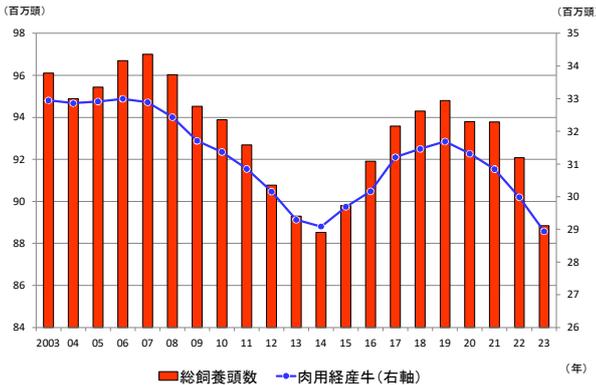
総飼養頭数は、2006年後半以降の飼料コスト高や11年以降の干ばつなどにより、肉用牛繁殖経営の収益性が悪化し、繁殖雌牛を中心に淘汰が進んだことから14年まで減少した。しかし、15年以降は草地の状態が改善され、牛群再構築が進展したことにより増加に転じた（図8）。

19年までこの傾向は継続したが、20年は干ばつにより繁殖雌牛の淘汰が進み減少に転じた。23年の総飼養頭数は牛群の縮小傾向などから、8884万1000頭（前

年比3.5%減)となった。

同年の飼養頭数の内訳を見ると、肉用経産牛は同3.5%減の2893万9000頭とやや、500ポンド(約227キログラム)以上の肉用繁殖後継牛(未經産牛)は、492万9600頭(同10.1%減)とかなりの程度減少した。また、同年の子牛生産頭数(乳用種を含む)は、同2.5%減の3359万3000頭となった。

図8 牛飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle」
注：各年1月1日現在。



写真3 フィードロットの風景

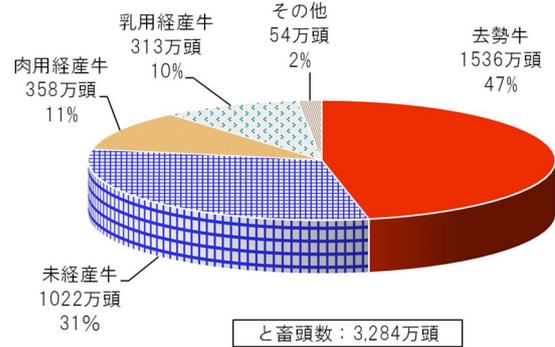
イ 牛肉の需給動向

(ア) 生産動向

2023年の成牛と畜頭数は、前年比4.3%減の3284万3700頭となった(図9)。種類別では、去勢牛が同4.7%減、未經産牛が同2.6%減、肉用経産牛が同11.1%減、乳用経産牛が同0.9%増となった。なお、同年の子牛と畜頭数は、同20.6%減の29万3400頭となった。

また、23年の成牛のと畜時平均生体重量(連邦政府検査ベース)は前年比0.5%減の619.2キログラム、平均枝肉重量(連邦政府検査ベース)は同0.5%減の374.2キログラムとなった。

図9 種類別成牛と畜頭数(2023年)



資料：USDA「Livestock Slaughter」
注：四捨五入の関係で円グラフの合計が100%にならない場合がある。

同年の牛肉生産量(枝肉重量ベース)は、飼養頭数、と畜頭数が減少したことから、同4.7%減の1223万2000トンとなった(表4)。

表4 牛肉需給(枝肉換算)の推移

(単位：千トン)

区分/年	2019	20	21	22	23
生産量	12,317	12,326	12,677	12,832	12,232
輸入量	1,387	1,515	1,517	1,538	1,690
輸出量	1,373	1,338	1,555	1,608	1,378
在庫量	291	325	306	328	289
消費量	12,372	12,500	12,688	12,771	12,614
1人当たり消費量(年間、キログラム)	26.2	26.4	26.7	26.7	26.2

資料：USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook: Table」
注：1人当たり消費量は小売重量ベース。

(イ) 輸出入動向

米国は、国内でトリミング(部分肉の成形過程で発生する脂肪分を含む端肉)材が大量に発生するため、豪州などからひき材として赤身割合の高い牛肉を大量に輸入し、トリミング材と合わせて主にハンバーガー・パティ用のひき肉を生産している。また、北部ではテーブルミート用牛肉をカナダから輸入している。

23年の牛肉輸入量(枝肉重量ベース)は、前年比9.9%増の169万トンとなった。

輸入先別に見ると、カナダ産は46万2000トン(同4.9%増)とやや、豪州産は30万3000トン(同66.0%増)と大幅に増加した。一方、メキシコ産は29万4000トン(同12.4%減)、ブラジル産

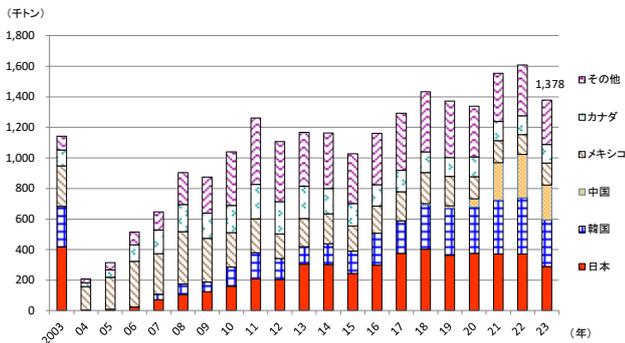
は19万5000トン（同7.6%減）とそれぞれかなり減少した。

牛肉輸出量は、03年12月に米国内で初めてBSEが発生した影響を受け、04年に大幅に減少したが05年以降は増加基調となり10年にはBSE前の水準となった（図10）。

12年以降は、供給量の減少や価格の高騰などから伸び悩んでいたが、16年以降は好調な国際需要などを背景に増加傾向で推移した。23年は、米ドル高による米国産牛肉の価格競争力の低下を背景に、アジア諸国向けを中心に輸出量が減少したことなどから、同14.3%減の137万8000トンと減少した。

輸出先別に見ると、最大の日本向けが29万1000トン（同21.7%減）、第2位の韓国向けは28万6000トン（同17.3%減）、第3位の中国向けは21万5000トン（同20.0%減）といずれも大幅に減少した。

図10 牛肉の輸出量と輸出先の推移



資料：USDA/ERS「Livestock and Meat Trade Data」

(ウ) 消費動向

2023年の1人当たり牛肉消費量（小売重量ベース）は、前年比2.0%減の26.2キログラムとなった。1985年の35.9キログラムから下降基調にあった消費量は、2015年を底に増加傾向で推移していたものの、23年は牛肉価格の上昇などから減少した。

ウ 肉牛・牛肉の価格動向

(ア) 肥育もと牛価格

肥育もと牛価格（オクラホマシティー、600～650

ポンド）は17年以降100ポンド当たり150米ドル台で推移し、20年は下落に転じた（表5）。23年は干ばつの影響で牛群が縮小したことなどから、同33.9%高の同243.0米ドルとなった。

表5 生体牛と牛肉の価格の推移

(単位：米ドル/百ポンド)

区分/年	2019	20	21	22	23
肥育もと牛	153.7	145.8	157.7	181.5	243.0
肥育牛	117.1	107.7	122.6	145.1	176.3
牛肉卸売価格 (カットアウトバリュー)	222.9	236.4	280.2	263.9	299.0
牛肉小売価格 (セント/ポンド)	604.3	653.6	724.9	758.5	798.3

資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook : Table」

注：カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。枝肉そのものではない。

(イ) 肥育牛価格

肥育牛価格（オマハ、1100～1300ポンド、去勢牛、チョイス級^(注3)）は、2014、15年が高値となったものの、16年に下落して以降おおむね横ばいで推移した。23年は肥育牛の供給不足などから、同21.5%高の100ポンド当たり176.3米ドルとなった。

(注3) 全8段階の肉質等級のうち、上から2番目の等級。

(ウ) 牛肉卸売価格

2023年の卸売価格（チョイス級、600～900ポンド、カットアウトバリュー）は、生産量減少に伴う需給のひっ迫などから前年比13.3%高の100ポンド当たり299.0米ドルと前年を上回った。

(エ) 牛肉小売価格

2023年の平均牛肉小売価格（チョイス級）は、前年比5.2%高の1ポンド当たり798.3セントとなった。

(3) 養豚・豚肉産業

米国の養豚は、アイオワ州やイリノイ州を中心とするコーンベルト地帯を中心に、伝統的に穀物生産の副業として営まれてきた。一方、ノースカロライナ州やオクラホマ州でのインテグレーション（垂直統合）の出現は、

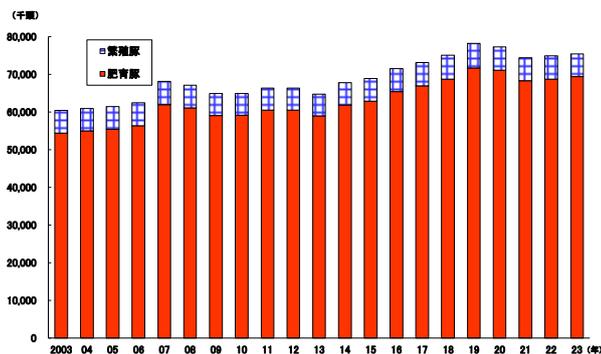
従来の養豚産業に対して、生産・流通などの面で大きな変化をもたらした。近年は、一部の州で環境規制やアニマルウェルフェアへの取り組みを強化する動きが見られる。

ア 肉豚の生産動向

豚飼養頭数は、2010年以降はおおむね増加傾向で推移する中、13年は豚流行性下痢（PED）の発生により落ち込んだ（図11）。その後、19年まで6年連続で増加したものの、近年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による市場の混乱で先行きの不透明感が続いており減少傾向にあった。一方、一腹当たり産子数の増加などから23年は前年比0.7%増の7546万1000頭とわずかに増加した。

飼養頭数の内訳を見ると、繁殖豚は599万9000頭（同3.3%減）と減少したものの、肥育豚は6946万3000頭（同1.0%増）と増加した。

図11 繁殖豚頭数と肥育豚頭数の推移



資料：USDA 「Quarterly Hogs and Pigs」
注：各年12月1日現在。

23年（22年12月～23年11月）の子豚生産頭数は1億3562万3000頭（同1.5%増）となった。また、一腹当たり産子数は11.68頭（同2.3%増）となった。



写真4 肉豚の飼養風景

イ 豚肉の需給動向

(ア) 生産動向

2023年のと畜頭数（コマーシャルベース）は、1億2797万1000頭（前年比2.1%増）となり、豚肉生産量は1238万4000トン（同1.1%増）と増加した（表6）。

また、23年のと畜時平均生体重量（連邦政府検査ベース）は130.2キログラム（同0.7%減）、平均枝肉重量（連邦政府検査ベース）は96.6キログラム（同1.4%減）となった。

表6 豚肉需給（枝肉換算）の推移

（単位：千トン）

区分/年	2019	20	21	22	23
生産量	12,536	12,838	12,553	12,245	12,384
輸入量	429	410	535	610	518
輸出量	2,867	3,302	3,186	2,878	3,095
在庫量	293	212	202	229	214
消費量	10,065	10,034	9,919	9,957	9,830
1人当たり消費量 (年間、キログラム)	23.6	23.5	23.1	23.1	22.6

資料：USDA/ERS 「Livestock and Meat Trade Data」

注：1人当たり消費量は小売重量ベース。

(イ) 輸出入動向

2023年の豚肉の輸入量（枝肉重量ベース）は、国内生産量が増加する中、51万8000トン（前年比15.0%減）となった。輸入先別に見ると、最大のカナダが33万9000トン（同11.2%減、総輸入量に占める割合は65.5%）、次いで多いメキシコは4万3000トン（同13.2%減、同8.4%）といずれも減少した。

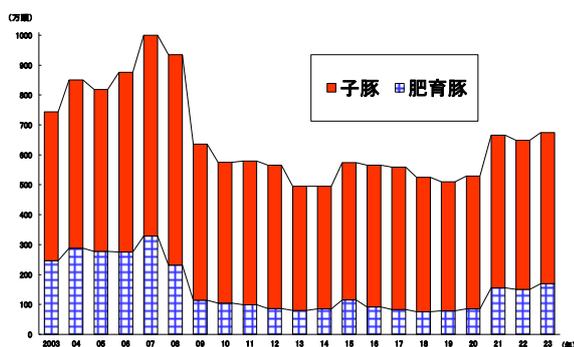
また、同年の生体豚の輸入は主に子豚であり、そのほぼ100%がカナダ由来である。23年の同国からの生体豚輸入頭数は、カナダ側の豚肉処理加工能力の低下などに伴い、674万5000頭（同4.0%増）とやや増加した（図12）。

輸出量（枝肉重量ベース）は16年以降、国内生産量の増加や堅調な需要を背景に増加傾向で推移していたが、23年は主要輸出先であるメキシコ向けの増加

などにより、前年比7.5%増の309万5000トンとなった(図13)。

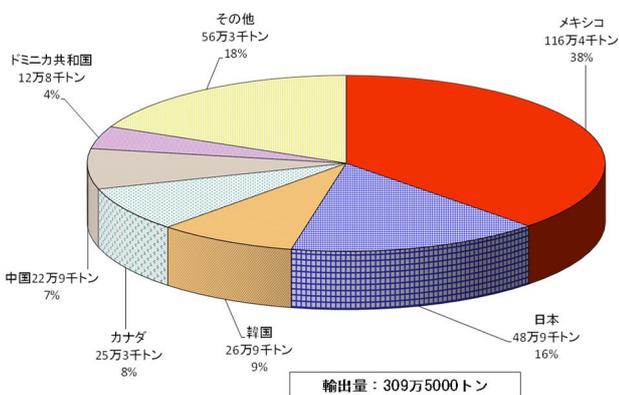
輸出先別に見ると、首位のメキシコ向けは116万4千トン(同9.8%増)と増加し、日本向けは48万9000トン(同0.7%減)と減少した。韓国向けは26万9000トン(同10.3%増)、カナダ向けは25万3000トン(同8.4%増)、中国向けは国内生産量の回復により22万9千トン(同18.0%減)、ドミニカ共和国向けは12万8000トン(同13.5%増)となった。

図12 カナダからの生体豚輸入頭数の推移



資料：USDA/ERS「Livestock and Meat Trade Data」

図13 豚肉の輸出相手国(2023年)



資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook」

(ウ) 消費動向

2023年の1人当たり豚肉消費量(小売重量ベース)は、インフレに伴う購買力の低下などから22.6キログラム(同2.1%減)と減少した。

ウ 肥育豚・豚肉の価格動向

(ア) 肥育豚価格

肥育豚価格は、2014年にはPEDの影響による生産量の減少などにより大きく上昇したが、15年以降、上昇と下落を繰り返している。23年は豚肉需要が減少する中、100ポンド当たり58.8米ドル(前年比17.4%安)となった(表7)。

表7 肥育豚と豚肉の価格の推移

(単位：米ドル/百ポンド)

区分/年	2019	20	21	22	23
肥育豚	48.0	43.2	67.3	71.2	58.8
豚肉卸売価格 (カットアウトバリュー)	77.1	77.3	104.1	103.7	89.8
豚肉小売価格 (セント/ポンド)	384.3	402.9	450.3	485.7	480.9

資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook：Table」

注1：肥育豚価格は、全米の平均価格。

注2：カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。枝肉そのものではない。

(イ) 豚肉価格

2023年の豚肉卸売価格(カットアウトバリュー)は、豚肉需要の減少などから100ポンド当たり89.8米ドル(前年比13.4%減)とかなり大きく減少した。一方、豚肉小売価格は1ポンド当たり480.9セント(同1.0%安)と前年をわずかに下回った。

(4) 養鶏・鶏肉産業

米国の養鶏産業は、飼料穀物の一大生産国という利点を生かし、生産から流通までの一貫したインテグレーションの進展により効率的な生産が行われている。また、国内では、消費者の健康志向からむね肉を中心として消費を大きく伸ばすと同時に、不需求部位のもも肉を中心に、鶏肉生産量の2割弱を輸出している。

ア ブロイラーのふ化羽数の動向

2023年のブロイラーふ化羽数は、鶏肉需給の緩和から前年比1.0%減の99億2866万1000羽となった。

イ 鶏肉の需給動向

(ア) 生産動向

2023年のブロイラー生産量(可食処理ベース)は、1羽当たり生体重量の増加から、前年比0.4%増の2104万1000トンとなった(表8)。1羽当たり平均重量(生体ベース)は、骨なしむね肉の需要増に伴うブロイラーの大型化などを背景に近年増加傾向にあり、23年は2.97キログラム(同0.9%増)となった。

表8 ブロイラー需給(可食処理ベース)の推移

(単位:千トン)

区分/年	2019	20	21	22	23
生産量	19,915	20,223	20,366	20,959	21,041
輸入量	59	66	70	80	59
輸出量	3,222	3,342	3,330	3,305	3,281
在庫量	425	376	320	405	379
消費量	16,498	16,778	16,944	17,425	17,620
1人当たり消費量 (年間、キログラム)	43	43	44	45	45

資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook: Table」

注：1人当たり消費量は小売重量ベース。

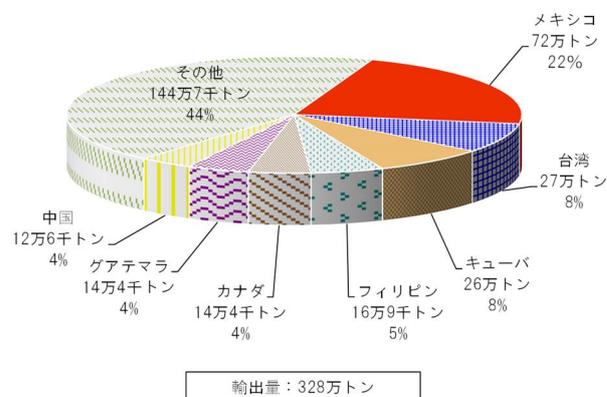
(イ) 輸出動向

2023年のブロイラーの輸出量(可食処理ベース)は、国内価格の高騰などを背景に、前年比0.7%減の328万1000トンとなった。

輸出先別に見ると、メキシコ向けは同8.6%増、台湾向けは同15.0%増、キューバ向けは同6.0%減、フィリピン向けは同9.7%減、カナダ向けは同5.4%減、

グアテマラ向けは同12.0%増、中国向けは同8.5%減となった(図14)。

図14 ブロイラーの輸出相手国(2023年)



資料：USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Situation and Outlook」

(ウ) 消費動向

2023年の1人当たり鶏肉消費量(小売重量ベース)は、前年比0.3%増の44.9キログラムとなった。

ウ ブロイラーの価格動向

(ア) ブロイラーの生産者販売価格

2023年のブロイラーの生産者販売価格は、生産量の増加や飼料価格の下落などから、前年比15.5%安の1ポンド当たり71.8セントとなった(表9)。

表9 ブロイラー価格の推移

(単位:セント/ポンド)

区分/年	2019	20	21	22	23
生産者販売価格 (生体)	48.2	36.4	56.4	85.0	71.8
卸売価格 (丸どり)	88.6	73.2	101.2	140.5	124.5
丸どり小売価格	149.5	143.3	152.7	180.1	185.5

資料：USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook: Table」

注：卸売価格、丸どり(中抜き)の価格。

(イ) 鶏肉価格

a 卸売価格

2023年のブロイラーの丸どり卸売価格(中抜き、12都市平均)は、前年比11.4%安の1ポンド当たり124.5セントとなった。また、国内向けが主体と

なっているむね肉は同127.9セント(同44.6%安)、輸出向けが主体のもも肉は同58.3セント(同2.0%安)となった。

b 小売価格

2023年のブロイラーの丸どり小売価格(中抜き)は、前年比3.0%高の1ポンド当たり185.5セントとなった。



写真5 小売店での鶏肉の陳列風景

(5) 飼料穀物

米国は、世界有数の飼料穀物の生産・輸出国である。飼料穀物の主力であるトウモロコシは、世界の生産量および貿易量の3割程度を占めていることから、世界の需給動向に与える影響力は極めて大きい。

ア 穀物の生産動向

2023/24年度(9月~翌8月)のトウモロコシ(サイレージ用を除く)の生産量は、作付面積の拡大などから153億4100万ブッシェル(3億9000万トン^(注4)) (前年度比12.4%増)と前年度をかなり大きく上回った(表10)。同年度の期末在庫は、国内消費量、輸出量はいずれも前年度を上回ったものの、生産量の増加分がそれらを上回ったため、前年度をかなり大きく上回る17億6300万ブッシェル(4500万トン)(同29.6%増)となった。

(注4) 1ブッシェルを25.4キログラムとして換算。

表10 トウモロコシ需給の推移

(単位:百万トン)

区分/年度	2019/20	20/21	21/22	22/23	23/24
生産量	345	358	381	347	390
国内消費量	306	308	316	306	323
うち飼料向け	147	144	144	139	148
輸出量	45	70	63	42	57
期末在庫量	51	31	35	35	45

資料: USDA 「Feed Grain Database: Yearbook Tables」



写真6 トウモロコシの収穫風景

イ 穀物の輸出動向

2023/24年度のトウモロコシの輸出量は、生産量が増加する中で、22億5500万ブッシェル(5700万トン、前年度比35.7%増)と大幅に増加した。輸出先別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは2286万トン(同41.3%増)、第2位の日本向けも1115万トン(同64.0%増)といずれも大幅に増加した。一方で、中国向けは299万トン(同61.2%減)と大幅に減少した。

ウ 穀物の価格動向

2023/24年度のトウモロコシの生産者販売価格は、世界的な供給量増加などから、1ブッシェル当たり4.55米ドル(前年度比30.4%安)と大幅に下落した(表11)。

表11 トウモロコシ価格の推移

(単位:米ドル/ブッシェル)

区分/年度	2019/20	20/21	21/22	22/23	23/24
生産者販売価格	3.56	4.53	6.00	6.54	4.55

資料: USDA 「Feed Grain Database: Yearbook Tables」